

「小田原文化財団 江之浦測候所 見学会」

～現代美術作家、杉本博司の世界を学ぼう～

2023年6月5日(月) JGA 第一支部研修終了報告

現代美術作家の巨人とも言われる杉本博司氏の活動分野は、写真、彫刻、インスタレーション、演劇、建築、造園、執筆と多岐にわたります。その杉本氏が、かつてミカン畑だった11,500坪の広大な土地に、構想から竣工まで20年をかけて作ってきた複合的なアートの施設が江之浦測候所です。



太陽の軌道を観測する“測候所”でありながら、杉本氏の代表的な作品の数々、化石や石のコレクション、そして茶室や神社までであるという、杉本氏の世界が凝縮されたような施設です。訪日客の関心も深く、業務や個人で訪れる事もありますが、この度は館長のホイル治子様にご案内頂きながら皆で作品を体感したいとの企画でした。

関東が梅雨に入る前にとの願い通り、当日は明るい陽射しと優しい海風、豊かな緑に迎えられながらの訪問となりました。参加者は会員19名、非会員4名に担当者を加え25名。

館長のホイル治子様には、建設のいきさつ、杉本氏の思い、その歩んできた道についてのお話を作品の説明に織り交ぜながら広い敷地をご案内いただきました。人の訪れが少ないコロナ禍の下でも作品の建設、手入れが進んできたのが感じられました。

受付までしっかり両側を見ながら歩いたはずなのに、あとからホイル様からの説明を伺うと、「あれ？気がつかなかった」と帰りがけにまた振り返る作品の多いこと。「どこにあったの？」と互いに額を寄せ合って教え合うのも実地研修の楽しさでした。



約1時間半、庭園内を共に巡って解散。それぞれが気になるところを振り返りながら帰路に。午後は小田原の街や熱海のMOA美術館（リニューアルに杉本氏が関わっています）へと元気に向かっていかれた方も多かったようです。